

H30年度本校の全国学力・学習状況調査の結果について

山梨大学教育学部附属中学校 H30.10.11

はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月17日（火）に全国の小中学校で実施され、本校でも、3年生150名が参加しました。調査内容は、①教科に関する問題（国語・数学・理科）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査があり、教科に関する問題は、**A**主として「知識」に関する問題と、**B**主として「活用」に関する問題に分かれています。

この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

7月末に文部科学省から本校の結果が送付され、本校で結果の分析を行い、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載いたします。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、後日個人票を配付しますので、自分の結果を確認し、今後の学習に役立ててもらいたいと思います。

1 本校の状況（全国との比較）

○本校の全体的な傾向は、国語A、国語B、数学A、数学B、理科のすべてにおいて平均正答率は極めて高い。また、国語・数学ともA問題に比べてB問題の平均正答率が若干低くなっているものの、全国と比べると正答率は高い。

○各自の正答率の散らばり具合は全国と比較して、すべてにおいて小さい。ただ、自校内のみで見ると、数学Aと理科の散らばり具合は、他に比べやや高めの数値となっている。

[参考] 国公立を含めた全国平均正答率と公立中学校の県平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国平均正答率	76.4	61.7	66.6	47.6	66.5
全県平均正答率	76	62	66	48	67

2 本校の主な成果と課題

国語

A 主として「知識」に関する問題

○設問全体を通して、無解答率が10%を超える設問は一間のみ（本校10.7%・全国19.0%）であり、本校生徒の無解答率が極めて低い。これは、知識に関する基礎・基本の理解の高さと問題を解決しようという積極的な学習への意欲の高さが現れているものだと考えられる。

○設問全体を通して、本校生徒の正答率は高いものとなっている。すべての設問の正答率が、全国平均を上回っている。国語に関する基礎的・基本的な知識・技能が身につけていると考えられる。国語科では、生徒の実態に即した指導目標の設定、どのような力が身に付いたかを意識する振り返りなどを位置づけた授業を構想してきたことによる成果だと考えている。

△全国的に正答率が低い問題においては、本校生徒も他の設問と比較してみると正答率が落ちている。例えば、文脈に即して漢字を正しく書くという設問や語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うという設問である。問われた語句は知識としては理解している語句である。しかし、学校生活の中ではあまり使用することはない。これまで以上に、実生活や社会生活に即した場面で生きて働く知識として身に付けさせる必要がある。

B 主として「活用」に関する問題

○「活用」に関する問題に関しても、無解答率が極めて低いという結果が、設問全体を通して現れている。本校で無解答があった設問は一間のみで、その無解答率は1.3%である。これは、既習事項を活用し、問題を解決しようとする学習意欲の高さの現れである。

○設問全体を通して、記述式という問題形式の設問の正答率も高いという結果が見られる。すべての問題形式（選択式・短答式・記述式）の正答率が、全国平均を上回っている。様々な機会を捉えて、自分の考えを他者に伝える活動を重視している学習の成果であると考えられる。

△全国的に正答率が低くなっている設問については、本校でも正答率が低くなっている。課題とな

る設問は「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く設問」と「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く設問」である。この設問は「書くこと」と「読むこと」の指導事項が合わせて出題されている。ただ解答類型を見ると、どちらも解答した内容（文章から読み取った内容）が不十分な解答類型となっている。このことから「読むこと」の能力に課題があると思われる。どのような目的で文章を読むのかを明確にして、目的に応じた情報の取り出しを意識して指導をしていく必要がある。

数 学

A 主として「知識」に関する問題

- 設問全体を通して無解答率が極めて低く、内容に対する理解と何とかして問題を解決しようという意欲が、ともに高いことがうかがえる。
- 全国的な傾向において課題とされた、具体的な場面で関係を表す式を等式の性質を用いて、目的に応じて式変形する設問に対して、本校では多くの生徒ができています。
- △全国的な傾向において課題とされた、一次関数の意味の理解を問う設問に対して、全国ほどではないものの、本校でも他の設問に比べると正答率は低い。
- △ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正負の数で表わされること、確率の意味の理解を問う設問に対しては、他の設問の正答率の傾向と見比べると、本校の正答率は低い。

B 主として「活用」に関する問題

- 全国的な傾向において課題とされた、不確定な事実の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについて、本校では多くの生徒ができています。
- △全国的な傾向において課題とされた、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問、数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明する設問に対しては、本校でも他の設問に比べると正答率は低い。

理 科

- 設問全体を通して正答率が高い。選択式・短答式による正答率の差はなく、無回答率も低い。これらのことから基礎的・基本的な知識が概ね身に付いているといえる。
- 物理、化学、生物、地学の各分野の正答率に大きな偏りは見られない。
- △全国的な傾向としても課題とされる植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する設問に対して、全国平均を上回るものの、他の設問に比べて正答率が低かった。
- △オームの法則を用いた問題や質量パーセント濃度を求める問題など、計算が必要な問題の正答率がやや低い。

3 各教科における主な改善点

国 語

- *漢字の読み書きの学習を継続する。また、生きて働く知識として身に付くように、実生活や社会生活に応じた場面を具体的に設定し指導する。
- *多様な情報に触れ、情報に対して問題意識をもったり、新しい発見をしたりするためには、自分の体験と結びつけて考える必要がある。教科書教材だけではなく、新聞や雑誌等の記事などを活用するなど様々な文種に触れさせ、自分の周りの出来事に関心を持たせるような指導を心がける。
- *自分の意見に説得力を持たせるために、主張・根拠を意識して話したり書いたりすることを意識できるような指導をする。また、自分の考えを表現する際には、「主張と根拠の整合性はどうか」「もっとよい表現の方法はないか」などの観点を持たせ、自分の表現を振り返る場面を設定する。
- *文章を読む活動において、目的意識をもって読むことができるように、具体的な言語活動を設定し、指導を充実させる。その際に、身に付けさせたい資質・能力との整合を図り、生徒が身についた資質・能力を自覚できるようにする。

数 学

- *一次関数・正負の数の理解について、計算や解決の方法にこだわらず、身近な事象と関連させて、意味の理解を深める。
- *確率の意味の理解について、統計的な確率と数学的な確率の意味の理解を実感できるよう、実験や観察を取り入れた学習を行う。

- *問題解決の方法や成り立つ事柄を判断した理由を数学的に説明することができるように、自分の問題解決の方法を他に説明し、よりよい説明に必要な情報は何かを議論する機会を設ける。

理科

- *自然の事物・現象を、一領域の観点からでなく、領域を横断した総合的な見方や考え方ができるようにしていくために、多面的、総合的に思考する学習場面を設定する。また、普段からニュースや身近な出来事と理科で学習したことを関連付けるような機会を増やす。
- *計算によって答えを導けるようにするために、数値を図式化（数直線、モデル化）するなど、より実感をもって捉えられるような活動を取り入れる。

4 質問紙調査の結果から

【生活習慣について】

- *「放課後に何をして過ごすことが多いか」については、「学校の部活動に参加している」が、全国平均同様、最も多く、次いで「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」が多い。この回答については、全国平均を23.6ポイント上回っている。

【自分や友達、学級について】

- *「自分には、よいところがあると思いますか」に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均を27.5ポイント上回っている。
- *「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国を18.3ポイント上回り、「どちらかという当てはまる」という問も合わせると、回答率は9割を超える。

【家庭学習と読書について】

- *「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）における1日あたりの学習時間（塾等での学習時間も含む）」については、「2時間以上3時間未満」、「3時間以上」と続き、これらの回答を合わせると全国平均を20.4ポイント上回っている。
- *「普段（月曜日から金曜日）の1日あたりの読書時間（教科書、参考書、漫画、雑誌は除く）」については、「2時間以上」から「10分以上30分未満」までの回答を合わせると全国平均を30.6ポイント上回っている。ただ、約3割が「10分以上30分未満」と最も多く、「10分より少ない」と「全くしない」を合わせると2割近い。

【数学の授業について】

- *「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」について、「当てはまる」との回答が全国平均を31.6ポイント上回る。
- *「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」について、「当てはまる」との回答が全国平均を26.8ポイント上回る。
- *「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解しているようにしているか」について、「当てはまる」との回答が全国平均を32.2ポイント上回るとともに、「どちらかといえば、当てはまる」の回答を合わせると、9割を超える。

【理科の授業について】

- *「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか」について、「当てはまる」との回答が全国平均を38.6ポイント上回るとともに、「どちらかといえば、当てはまる」との回答を合わせると、約9割である。
- *「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察しているか」について、「当てはまる」との回答が全国平均を37.6ポイント上回るとともに、「どちらかといえば、当てはまる」の回答も合わせると、9割を超える。
- *「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか」について、「当てはまる」との回答は全国平均を31.3ポイント上回るとともに、「どちらかといえば、当てはまる」の回答も合わせると8割を超える。

【これまでの授業全般について】

- *「1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいったと思うか」について、「当てはまる」との回答が全国平均を35.6ポイント上回るとともに、「どちらかといえば、当てはまる」の回答も合わせると9割を超える。
- *生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思

うか」について、「当てはまる」との回答が全国平均を36.2ポイント上回るとともに、「どちらかといえば、当てはまる」の回答を合わせると9割を超える。

【地域や社会への関わりや関心について】

- * 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか」については、全国平均を34.5ポイント上回っている。
- * 「新聞を読んでいるか」については、「ほぼ毎日呼んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」「月に1～3回程度読んでいる」の回答を合わせると5割を超え、全国平均を29.5ポイント上回っている。一方で、全国平均よりも低いものの「全く読まない」との回答も4割を超えている。

【今回の調査について】

- * 「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題があったが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力したか」について、「当てはまる」が全国平均を27.8ポイント上回る。
- * 「今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題があったが、最後まで解答を書こうと努力したか」について、「当てはまる」が全国平均を20.7ポイント上回る。

5 質問紙調査結果から見た改善点

- * 本校生徒は日常的に学習に取り組んでいるのはもちろんだが、部活動への参加率も高い。その割に、「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」について、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した生徒が3割を超えていた。今後、計画性を意識させることにより、多方面での活動が、より充実するに違いない。
- * 文部科学省によると、「新聞を読む頻度とテストの正答率」との正の相関関係が報告されている。本校では、全体としては全国平均よりも新聞を読む頻度は高いものの、「全く読まない」と回答した生徒が4割を超えている。また関連内容として、1日あたりの読書時間についても、1日「30分未満」から、「全くしない」までの回答を併せると5割近い。今後も、SELF（総合的な学習）や朝読書等を充実させ、読解力はもちろんのこと新聞活用も含めたメディア活用能力の育成を図りたい。
- * 「子どもの良い点や可能性を見つけほめる指導」に関する項目は、全国的に見て、前年度に比べ、今年度大幅に数値が伸びたものである。ただ、全国的傾向としては、教師がほめたつもりでも、子ども達は必ずしもそのまま受け入れていない可能性があるという課題も取り上げられている。この点において本校は、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」という問に対して、9割を超える生徒が「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答していた。本校教職員の日常的な声かけが、生徒達にほぼ受け入れられているものと考えられる。今後も、一人ひとりの良さを認め、励ます指導を継続していきたい。
- * 「将来の夢や目標を持っていますか」について、約2割の生徒が「どちらかといえば、当てはまらない」または「当てはまらない」と回答していた。SELF（総合的な学習）を柱としながら、本校ならではの教育活動（山梨大学と連携した若桐講座、PTAと連携したキャリア教育講演会など）を生かしながら、3年間を見通したキャリア教育を充実させていきたい。

【保護者の皆様へ】

調査結果より、本校生徒が、学校生活に対して、前向きに意欲的に生活している様子がうかがえます。今回の結果を参考にし、職員一同、今後も生徒一人ひとりが成長できる学校づくりを目指し努力する決意です。今後とも、附属中教育へのご理解とご協力をお願いいたします。